

宿根木活動の継続と展開

敬和学園大学長坂ゼミ

中山 裕貴

内田 康介

1. 宿根木集落の概要

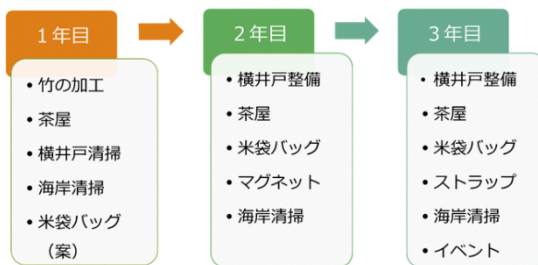
宿根木は、佐渡の最南端で17世紀に北前船の寄港地として発展した歴史ある集落である。谷間と呼ばれる、宿根木海岸に面した集落は、船の資材や船大工の技術を用いた建築を残し、国の重要伝統的建造物群保存地区として佐渡の観光名所となっている。

2. 昨年度までの活動の引継ぎ：ゆるやかなコミュニティづくり



2020年度から始めた宿根木活動は今年度3年目に入った。これまで、特に力を入れてきたのは、宿根木集落での「ゆるやかなコミュニティづくり」である。ベトナムの首都ハノイでみられる路上の茶飲み空間を応用し、開放的な雰囲気をもつ宿根木集落の入口（駐車場スペース）を中心に、宿根木版「ベトナム風路上茶屋」を開催してきた。学生が店主となって2年間は佐渡番茶、今年度は佐渡番茶に加えてベトナム蓮茶の無償提供をおこない、大学生と地域住民との交流、観光客と地域住民をつなぐ場をつくり出してきた。

3. 3年目の活動内容：継続と展開

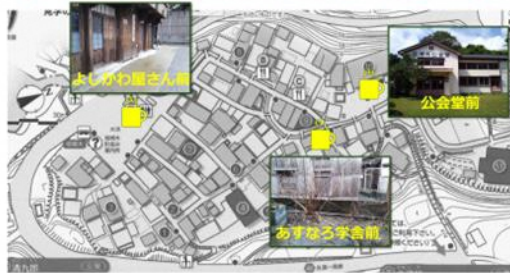


今年度は、ベトナム風路上茶屋を開くのに、駐車スペース横（よしかわ屋前）の他、「宿根木公会堂」前と空き家の敷地も活用した。この借用した敷地は観光名所の一つ「三角家」を眺める絶景スポットで、茶を飲みながら時間を過ごすのに適している。

このほか、2年目の「宿根木焼き印入りマグネット」づくりを活かして、ストラップづくりを試みた。また、1年目の宿根木の竹製マグカップホルダーのように、竹で遊び道具を作った。それらの作業は「宿根木を愛する会」の協力を得て木羽屋でおこなった。

1年目は横井戸までの清掃参加、2年目は本格的な横井戸まで（トレッキングコースづくり）をおこなったが、今年度は整備の継続のほか、のり面に竜のひげを植えて補強をはかった。恒例としている海岸清掃など、学生による自主的な活動も遂行した。

2022年度 路上茶屋の継続・佐渡番茶とベトナム茶の提供



イベント開催のための準備 わなげ・水でつぼう・モルック
お手玉・宿根木ストラップ



<11月6日、7日 イベント『宿根木フェスタ』開催>

9月の連休中と11月のイベントでベトナム風路上茶屋を開催した。イベントでは世代を超えて楽しめる遊びを考えたが、10月の打ち合わせ段階で、それらを「宿根木の竹で作ったらどうか」との提案を受け、竹を伐採して加工することにした。また、学生が宿根木で椿の実を拾い、ご厚意でいただいた端切れを用いてお手玉も作ってみた。



宿根木で「一から作ること」の楽しさを教えてもらった。わなげの輪は「はんぎり」の知恵を拝借した。学生が作った輪は歪になったが、2日間のイベント開催だけでなく、宿根木の資源を活かしたモノづくりに時間をかけて、学生にとって大変有意義であった。結果的に、1年目から取り組んできた「リサイクル米袋バッグ」にも通じる、環境にやさしい取り組みになったといえる。これも地域の協力あつての学びとなった。

4. 今後の課題：「人のつながり」の継続に向けて

学生が地域や観光客をつなぐだけでなく、自分たちが「関係人口」になるように、既卒後も本活動に関わることができる仕組みを考えたい。そして、地域の方々や佐渡の若者とも共に宿根木を盛り上げていけるようにしたい。また、今年度初めて試みた空き家の利活用について、さらにアイデアを出して、有効的に使う試みをしていきたい。